

【報告】

第114回 全国禁煙アドバイザー育成講習会 in 宮崎

【講習会】

- ◆開催日：2012年（平成24年）7月22日（日）
- ◆場所：宮崎県立看護大学
- ◆主催：日本禁煙科学会・禁煙健康ネット（KK）宮崎・禁煙マラソン
- ◆後援：宮崎県・宮崎県教育委員会・宮崎市・宮崎県医師会・宮崎県歯科医師会・宮崎県薬剤師会・宮崎県看護協会・宮崎県歯科衛生士会・宮崎県小児科医会・宮崎市郡医師会・宮崎県健康づくり協会・宮崎日日新聞社

【メインテーマ】

想いを形に、つながろう禁煙支援の輪 —ほんの少しは0じゃない—

【主たるプログラム】

◇習熟度別禁煙支援講座

禁煙支援基礎コース

聞いてすぐ始めたい禁煙支援の基礎知識

禁煙支援のエビデンス

のだ小児科医院 野田隆

ホントは楽しい禁煙支援

禁煙マラソン事務局 三浦秀史

禁煙防止教育から学ぶ禁煙支援

飯塚市立病院 牟田広実

禁煙アドバンスコース

禁煙支援スキルアップ—実地の質問に答えます

日本禁煙科学会 高橋裕子

ヒカタ薬局 原隆亮

つばめファーマシー 萩田均司

古賀総合病院 吉原文代

◇ランチョン・セミナー（ファイザー共催）

禁煙支援の新しい潮流

日本禁煙科学会 高橋裕子

◇分野別分科会

禁煙推進分野「医療機関の禁煙化につづくもの」

宮崎県の医療機関の喫煙環境

座長：日南保健所 瀧口俊一

心療内科での禁煙支援

宮崎県健康増進課 和田陽市

呼吸器専門医から見た禁煙支援

中村クリニック 中村究

循環器科での禁煙支援

北浦診療所 日高利昭

小児科での禁煙支援

野村循環器内科クリニック 野村勝政

のだ小児科医院 野田隆

薬剤師分科会「薬局は町の禁煙ステーション」

新・禁煙日記の有効利用

ヒカタ薬局 原隆亮

オアシス薬局 平山倫代

つばめファーマシー 萩田均司

◇Q&A

【開催報告】

■総括

雷雨のさなか、講習会開催時間だけ晴れ間がのぞくという天候でしたが、7月22日宮崎県立看護大の中講義室を2室利用して表題の会が開催されました。参加者は薬剤師60名、看護師21名、医師6名、保健師7名、管理栄養士4名、助産師2名、歯科衛生士1名、事務職2名、学生3名の104名でした。

受講後の認定試験受験者は42名であり、リピーターも多く既受験者の数を考慮すると初めて参加する人の80%は受験したことになり、皆さん講習会の内容を十分理解されたことがうかがわれます。楽しくてためになる講習会をと企画して準備しましたが、苦労が報われた気がします。



熱心に聴講する参加者のみなさん

以下は参加者による感想を掲載して各セッションの報告に代えたいと思います。(報告者:野田隆)

■禁煙支援基礎コース

「聞いてすぐ始めたいくなる禁煙支援の基礎知識」

野田先生からは、たばこの健康影響のエビデンスについて、非常に分かりやすくかつ説得力のある説明をいただいた。いつもながら含蓄のある洒落に、ますます磨きがかかっていた。

三浦先生からは、禁煙支援を難しく感じる壺を自身の体験をもとに分かりやすく提供された。昨年の講習会アンケート意見にすぐに対応され、ボイストレーニングに励むあたりは、さすがである。

牟田先生からは、子どもたちへの喫煙防止教育を通して、禁煙支援の醍醐味について、特子どもたちの感想文は、純粋に無垢な子どもたちから力や勇気をもらえることが伝わってきた。子どもを通して、親の禁煙への可能性も期待される。(報告者:瀧口俊一)



■アドバンスコース

「禁煙支援スキルアップ」

今回のアドバンスコースは、通常の形式で、最初の15分、参加者に質問を書きしてもらい、質問を読み上げる形で高橋先生進行の下、高橋先生・萩田の返答を基本に参加者と共にディスカッションを行った。参加者は、約30名で医師・看護師・保健師・薬剤師等が参加。

質問内容は、



禁煙する意志のない患者に如何に禁煙を勧めるべきか？

禁煙外来に再診しなくなった患者に連絡すべきか？

93歳の高齢者に如何に禁煙を支援するか？

病院に入院の際、抗精神病薬とチャンピックスとの相互作用を考慮して禁煙を如何に進めるべきか？

入院中は禁煙出来ていても退院後再喫煙してしまう。どうしたら良いか？

病院(実は循環器病院)の職員の禁煙支援と病院の敷地内禁煙を如何にすすめたら良いか？

等、個人レベルから施設レベルまで多岐にわたり、大変有意義なセッションであった。

また、参加者に中村先生(精神科専門医)が参加され、専門的なアドバイスをいただいたことも有意義な時間を過ごせた要因であった。(報告者:萩田均司)

■ランチョンセミナー

「禁煙支援の新しい潮流」

豊富な禁煙支援経験をもとに最新の禁煙支援の具体的内容を紹介された。途中、機嫌の悪いプロジェクターをなだめすかし、蕩々と映像が浮かぶような流暢な話をされる高橋先生に、内容は当然であるが、感心したのは私一人ではなかつただろう。チャンピックスの使い方など非常に勉強になった。「日本きもの学会」会長に就任された高橋先生、着物はもちろん日本女性の美しさを再認識した望外の成果もあったセミナーであった。(報告者:萩田均司)

■禁煙推進分野

「医療機関禁煙化につづくもの」

和田先生からは、宮崎県内の医療機関の禁煙状況や診療報酬改訂情報、禁煙ゲータ路上アンケートなど報告いただいた。禁煙と体重増加に関する論文情報も提供されたが、コントロールである非喫煙者の体重増加と比較して判断する必要性もあるとの突っ込みは、座布団1枚ですか。

中村先生からは、うつ等の背景をもった患者さんの禁煙支援について具体例を提示された。明確な禁煙動機が成功の鍵と話された。また、パニック障害等の神経症分野における禁煙支援は留意する必要があること、チャンピックスの副作用については経験的には抑うつ等の大きな悪化はなかったこと、1年以内の再支援については、漢方の使用も一定の効果があることを報告された。

日高先生からは、呼吸器専門医の立場からCOPDについての詳細な説明があり、禁煙支援について患者さんへの問いかけや肺機能検査の重要性の説明があった。肺年齢があることを私を含め数人の参加者しか知らない人がおらず、浦島状態に陥る危険性を認識させていただいたことが一番の収穫。

野村先生からは、心臓カテーテルの熟練医師として、心筋梗塞の実際の治療ビデオを供覧され、死ぬほどの苦しみを経ないとなかなか禁煙しようとしにくい患者さんたちのことを報告された。禁煙すれば、死亡リスクは36%減少すること、喫煙によるAMIリスクは3倍等々のエビデンスを紹介され、「禁煙は人生をかえる」との名言を残された。



野田先生からは、日常の診療の中で「最初の1本を吸わせない」ことを目指して取り組まれていることをエビデンスを交えて紹介された。禁煙セットなるものをいつも診療机において対応されているということで、ぜひ御恵とお願いします。

最後に、パネルディスカッションであったが、座長の不手際と能力不足で時間がほとんどなくなり、それぞれの先生方への質問も制限されることとなった。なお、なぜ私が座長なのか、との参加者の大きな疑問があったことと思われたが、野田先生がやさしくフォローされたそのホスピタリティーに心から感謝します。

(報告者：瀧口俊一)



■薬剤師分代会

「薬局は町の禁煙ステーション」 —新禁煙日記の有効利用—

和歌山県ヒカタ薬局の原隆亮先生を迎え、「薬局は町の禁煙ステーション —新・禁煙日記の有効利用—」の表題で薬局での禁煙支援について講演いただいた。薬剤師の参加者は42名。講演では、具体的な薬剤師の対応方法が提示され、薬局薬剤師がどのようにしたら禁煙支援できるかわかりやすい講演であった。

後半は、参加者が隣同士2人組になって、コーチング・カウンセリングの初歩的なロールプレイングを、応用編では実際のロールプレイングの後、薬剤師はどう対応すれば良いかを選択問題形式で実施。参加者が講演を聴くだけでなく参加することにより、身体で禁煙支援を学ぶことが出来た。(報告者：萩田均司)